

# 文楽座新役員選挙結果のご報告

任期満了につき役員選挙を行いました。

投票期間 七月二十六日～二十八日

開票 七月二十九日

(太夫の二位同票数のため改めて決選投票)

## 代表理事

竹本 鋳太夫※

## 副代表理事

鶴澤 燕三

## 理事

吉田 一輔

豊竹 睦太夫

豊竹 芳穂太夫※

豊竹 靖太夫

鶴澤 清友※

鶴澤 清介※

鶴澤 寛太郎

吉田 勘市

桐竹 紋臣※

桐竹 勘次郎※

## 監事

吉田 玉也

※は今回新たに選出

## 追悼

謹んでご冥福をお祈りいたします。

豊竹 咲太夫氏



令和六年一月三十一日死去

昭和二十八年豊竹山城少掾に入門、同四十一年初代豊竹咲太夫と改名。平成十六年紫綬褒章、同二十一年切語りとなり同年には日本芸術院賞を受賞、令和一年重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定、同三年に文化功労者、同五年には日本藝術院会員に認定。令和六年旭日中綬章、同六年一月三十一日従四位に叙される。令  
豪快な語り口の中にも、豊かな情感を表現し文楽にとってかけがえのない太夫として活躍されました。

吉田 簗助氏



令和六年十一月七日死去

昭和十五年三代吉田文五郎に入門、同三十六年三代吉田簗助を襲名。同三十三年の芸術祭奨励賞を始め平成六年重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定、同八年紫綬褒章、同九年日本芸術院賞、同十八年フランス芸術文化勲章コマンドゥール、同二十一年文化功労者、同二十四年日本藝術院会員、令和五年旭日中綬章、同六年十一月七日従四位に叙される。多くの文楽ファンに愛され、長年に亘り文楽に多大なる貢献をされました。

吉田 文司氏

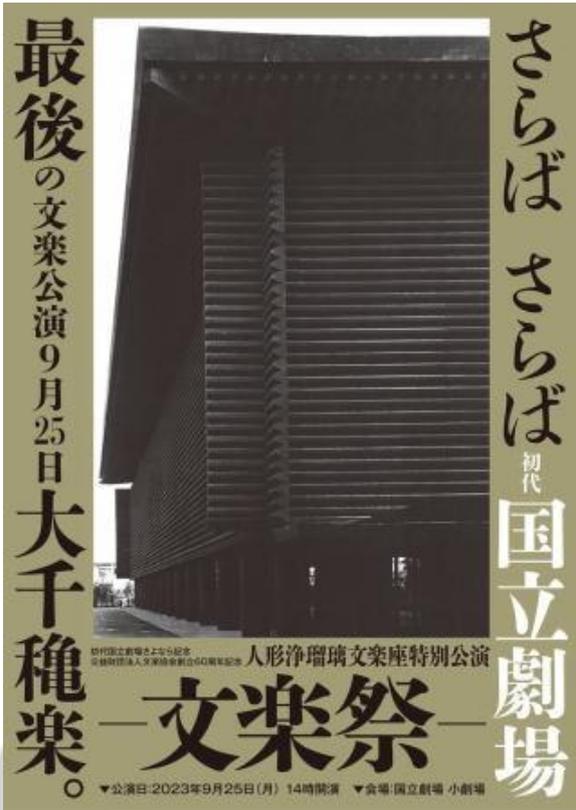


令和七年二月二十八日死去

徳島城北高校民芸部で人形浄瑠璃に触れ、昭和五十年吉田小玉(五代吉田文吾)に入門、平成二年に吉田文司と改名。  
穏やかな人柄で後進の指導にも尽力し、皆から慕われる人形遣いとして活躍されました。

昭和四十一年十一月に開場して以来、永らく東京での文楽公演の拠点として皆様にご愛顧いただきました初代国立劇場が立て替えのため令和五年九月二十四日の本公演、同二十五日の「文楽祭」と銘打った人形浄瑠璃文楽座特別公演を持ちまして全ての文楽公演が終了いたしました。

しかし理事長挨拶でも触れましたように現在のところ入札不調で多くの不安を抱え様々な関東の劇場で試行錯誤しながらの上演となっております。



二十五日の「文楽祭」には本当に多くのお客様にご来場いただき名残を惜しみつつも天地会やトークショー等の特別公演をたのしんでいただきました。

また普段ロビーには出ない三業の技芸員ですが、この日はかりは物品販売やファンサービスを行いました。この時制作した「文楽名鑑」も在庫ございますのでご入用の方は文楽座理事までお申し付けください。

「文楽祭」終演後のカーテンコールではこの日にご来場いただいたお客様はもちろん、これまで文楽を支えてくださったすべてのお客様に皆万感の想いで感謝の気持ちをお伝えしつつ舞台側より撮影させていただきました。

